

第26回 世界遺産検定 マイスター試験 講評 および 学習方法

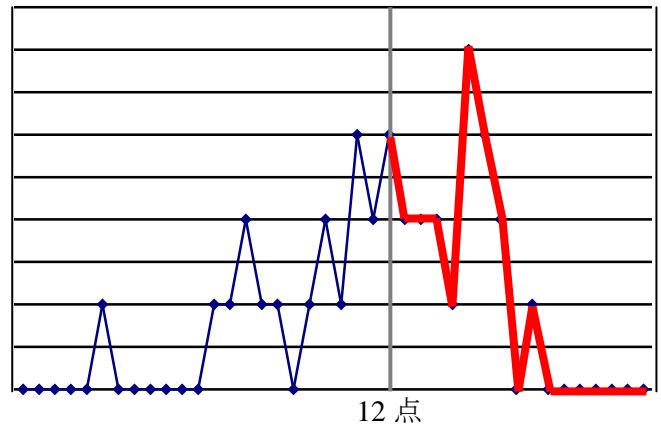
1. 実施概要 2. 認定点と分布 3. 問題 4. 総評 5. 各問の短評と学習法

1. 実施概要

検 定 日：2016年12月18日（日）
検定会場：東京・名古屋・大阪
検定時間：120分
解答形式：論述形式（記述）
申込人数：40名
受検人数：36名
認定者数：19名（認定率52.8%）

2. 認定点

認定点：12点（20点満点）
最高点：16.5点
最低点：3点



3. 問題

1 次の語句を簡潔に説明しなさい。

1. バッファー・ゾーン
2. 登録基準 (ix)
3. 奈良文書

2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。

世界遺産委員会 顕著な普遍的価値
国際社会全体の義務 社会生活の中での機能・役割

3 世界遺産リストの信頼性確保のため、グローバル・ストラテジーと共にトランスバウンダリー・サイトが有効であると考えられる点と、トランスバウンダリー・サイトの保護・保全の観点から課題となる点の2点について、「ル・コルビュジエの建築作品」の事例を用いつつ、1,200字以内で論じなさい。

4. 総 評

マイスターの試験の出題傾向を受検者がよく分析し対策を練ってきていると感じた。そのため、今回は特に1、2の解答の点数がこれまでよりも格段に上がっていた。マイスター試験は1と2で問われる基礎的な知識を踏まえた上で、自分の意見をもち、的確に発信できることを測るものであり、3が重視される。3は、世界遺産条約が現在直面している「世界遺産リストの信頼性」に関する問題で、グローバル・ストラテジーと共にトランスバウンダリー・サイトの観点からも考察する、少し複雑な問題であった。そのためか、点数に開きがでて合否が分かれることになったが、全体としては例年よりもよく解けていたように感じた。ただ改行や段落あけなど、文章としての体裁が不十分である解答も少なからずあり、その辺りも対策をする必要がある。

5. 各問の短評と学習法

1

短評：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。比較的によく解けていたが、奈良文書であれば「真正性」と「自然条件や文化・歴史的背景の尊重」など、複数の観点から説明することが重要であるが、文字数の制限からかひとつの点のみで説明し減点される解答も多かった。限られた文字数の中で、どのポイントを含めることが最適であるかを考える必要がある。

学習法：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句をはずさないようにする。間違っていないが本質ではない点をいくら並べても説明としては不十分なので、学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむ**ことが重要である。

2

短評：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。前回同様、及第点に達している受検者が多かった。前回に引き続き「社会生活の中での機能・役割」や「国際社会全体の義務」のキーワードが含まれたが、キーワードを組み込む以上の記述が出来ていない解答も多く、その点で減点となった。キーワードは出題者の意図する解答の方向性を示しており、ただ組み込むだけでなくそのキーワードを中心に組み立てる方が点数は高くなる。その点で間違っていないけれど点数が抑えられてしまった解答もあった。

学習法：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくといよい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚えて**おき、問題に合わせて語句を組み合わせるようにするのが重要である。また、指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

短評：世界遺産に関するテーマについて、独自の意見を論理的に論ずる問題。今回は、世界遺産条約が現在直面している「世界遺産リストの信頼性」に関する問題で、グローバル・ストラテジーと共にトランスバウンダリー・サイトの観点からも考察する必要があり、トランスバウンダリー・サイトを字義通りにのみ捉えていると解答が難しかったようだ。また「ル・コルビュジエの建築作品」についても、作品群の解説でしかない解答や推薦の歴史などを説明する解答は点数が低くなった。一方で、トランスコンチネンタルによる保護・保全の課題と、その課題こそが世界遺産リストの信頼性確保と結びつく点などを考察している解答もあり、高得点となった。

学習法：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使える要素も準備しておくといよい。論述問題では「**正解**」というものはない。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。